

とどろきアリーナ まだ、まだ使えます 建て替え250億円 税金の無駄遣い

等々力緑地（川崎市・中原区）の再編整備計画では、とどろきアリーナを新しく建設しようとしています。その額はなんと約250億円（スポーツセンター、プール含む）です。しかし、いまのとどろきアリーナは築30年（1995年開業）です。メンテナンスをすれば十分使えます。なぜなら東京ドームの開業は1988年で、まだ現役です。



とどろきメインアリーナ（右）とサブアリーナ（スポーツセンター含む、左）。手前は多目的広場

約1200億円に膨らんだ再編整備費

等々力緑地再編整備計画で最大の問題は、2023年に約633億円で、川崎市が川崎とどろきパーク株式会社（東急を中心とした9社の目的会社）と契約した再編整備費が、全国的な建設費高騰で、最終的にどれくらいに膨らむかがわからないことです。

現在、当初の2倍近い約1200億円近くに膨らんでいます。貴重な市民の税金の無駄遣いは避けなければなりません。

大規模イベントで交通渋滞が深刻に

京急川崎駅前に、DeNAと京急によって1万5000人規模の新アリーナが2028年開業予定です。富士通は創業100周年記念事業として、JR武蔵中原駅前に新アリーナを建設します。どちらも駅前に建設されるため、試合があっても交通渋滞は避けることができます。

大規模イベントを開催するたびに交通渋滞が発生する等々力緑地の新アリーナ建設は、周辺住民の迷惑をもたらすだけです。

とどろきプール設置は市民の願い

とどろきプールは、川崎市も長年繰り返し設置を約束してきました。市民の長年の願いであり、新たな設置は大歓迎です。場所は、旧市民ミュージアムの跡地が適地です。そこに新しい森をつくり、緑に囲まれたプールで子どもたちの笑顔と歓声を想像すると、とてもわくわくします。

催し物広場は、憩いと防災対策の拠点として、今の場所で維持するよう求めています。

<主な施設の再編整備費の内訳>

サッカー専用スタジアム	約300億円
新アリーナ（スポーツセンター・プール含）	約250億円
新陸上競技場	約50億円
旧市民ミュージアム解体	約17億円

巨額な整備費がかかると思われる「植栽整備費（伐採、移動、植樹等）」と「外周園路工事費」の額について、等々力緑地を守る会が川崎市に文書で問い合わせをしたところ、「工事費の内訳を公表する予定はありません」との回答でした。